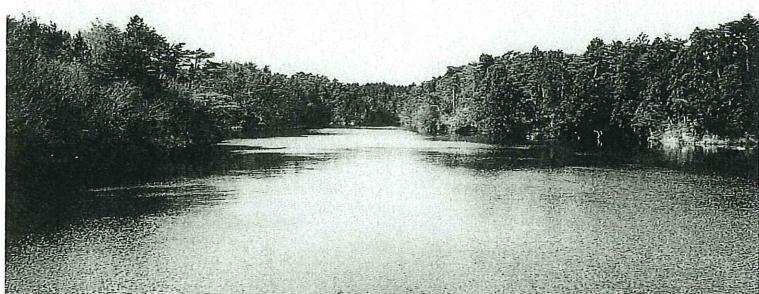




助宗堤入口に立つ看板（制作：ふるさと塾）



今も堤を見守る助宗明神



今の若い人は今の米のとれる田んぼの姿しか見ていないので、継承できるだらうか？と心配にもなります。

また、この地区では昔から水の便が悪いので火事を一度も出したことがない。用心が

ふるさと再発見・地区めぐり

大熊町を端から端まで 知りつくそう！

〒979-1304 第4回は小良浜地区です。

この地区は熊川から太平洋を望む富岡町との境にあります。

今回は小良浜に生まれ、地区の変化をつぶさに見てこちらの佐藤祐禎さんにお話しを伺いました。

||ここは、岩城藩と相馬藩の境で、番所があり、現在は19戸ですが、昔は相当の戸数があった。

今でも少し山の立木の中に入ると茂みの中に万年青やさつきがあり、人家と庭の跡がうかがえる。

耕地は少なく貧しい村だった。浜からは船が出ていて、渚では鰯がとれた。水が無く棚田のような段々田には清水を引いて米が作られていた。大変な苦労だった。三百年前に作られた助宗の堤によつて本格的に稻作ができるようになつた。この堤は高度な測量技術を駆使し設計されたことがうかがえるが、今では誰がどうのような技術で測量したか

調べようがない。

ここは小さな集落なので争い事などもなく住んできた。昔から稻作の苦労を知つていゐる者は、基盤整備をして田んぼが良くなつたから文句はないようだ。

相双池めぐり
温故知新の小さな旅

14. 助宗堤（大熊町小良浜）

この池は、相馬藩主の命により斬頭助宗が工事の責任者としてつくれたもので、上下二つの池がなる。この堤の出来上がりを見に来た畠の勞兵役に、「助宗、この堤の水は海に注ぐためにつくったのか」と并明の赤地も与えられずにいたされました。（それほど海に近かった）助宗は一貫の并明もすることなくこの堤の丘の上で切腹し果ててしまった。堤の恩恵を受けた里の人々は、切腹した丘に小さな祠を建てて、助宗が死んだ日を祭日と決め、毎年お供物を添えて彼の靈を慰めています。

花の木を大切にしましょう。
ゴミは持ち帰りましょう。

福島県相双漁業事務所 福島県地域振興事業調整費事業

